

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	株ぽーと 放課後等デイサービス ひかり三春教室			
○保護者評価実施期間	R8年 2月 9日		～	R8年 3月 7日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24名	(回答者数)	
○従業者評価実施期間	R8年 2月 12日		～	R8年 2月 24日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 4日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・集団活動の中に、体を動かすことを意識した活動を取り入れている。活動を通して体幹の強化を図ったり、バランス感覚を身に付けたりすることで、日常生活での姿勢の保持や危機回避ができる体作りを支援している。	・体を動かさそうでは、様々なプログラム(ボール遊び・体幹トレーニング・指先トレーニング・バランス運動・ダンス)を用意して、子供たちが興味をもって参加できるようにしている。	・体重の増加や筋力の弱さなど子供たちが持つ課題に対して効果的な活動を設定し、活動を楽しみながら健康な体作りが意識できるようにしていきたい。

2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動に言葉遊びやお金の勉強、買い物体験など取り入れ、言語理解につながる支援、社会生活能力の獲得に向けた支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉遊びでは、カードを使用したり、しりとりゲームを行ったりと楽しみながら言語理解につながるよう工夫している。 ・ 教室内でのお金の勉強、実際に出掛けてのお買い物体験を行い、お金の計算や買い物の仕方を経験から身に付けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉遊び、お金の勉強、お買い物体験の活動内容の振り返りを行い、楽しみながら理解向上につながる支援をしていく。 ・ 単発ではなく、定期的に行うことで経験を積み、成功体験を増やしていく。
3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動内容を、毎日違う内容で計画しており、飽きずに楽しく参加できるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体を動かそう・言葉遊びを週1回は行うようにしているが、内容はローテーションで行っている。 ・ 前の月の曜日と重ならないように計画を立てている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい活動を取り入れる事で、興味関心が持てるようにしていく。 ・ 今やっている活動が、場所や子供たちに合っているのかの確認を行い、合っていない活動には見直しをかけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団活動で使用するスペースを広く確保しているため、個別対応に使用できるスペースが限られてしまっている。 ・ カームダウンに使える場所が明確ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スペースの有効活用ができていない。 ・ 収納が少なく、大型遊具などもありスペースの確保が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室内のスペースの確保、利用方法について検討、改善を図っていく。 ・ パーテーション等の利用も考え、対応していく。 ・ 物の配置を変えるなど、構造化を図れるか検討し、子供たちが集中して物事に取り組みたり、カームダウンができる部屋の確保が出来るか考えていく。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者同士の交流の機会がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の参加できる行事を計画できていない。 ・ 働いている保護者が多く、日時の設定が難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の方も参加できる行事の立案 ・ 全員の参加は難しいので、任意で参加者を募る。 ・ 保護者の方にも、どういう内容が良いか、案をだしてもらう。

3	・ 集団生活・活動で個々に合わせた支援が難しい。	・ 年齢層の幅があり、活動内容のレベルアップ、個々のレベルアップが難しい。 ・ 集団生活が難しい児童に対しての柔軟なスケジュールの提示や集団から離れた個別のスペースの確保ができていない。	・ 集団活動をしていく中で、個々のレベルを把握し出来る所は見守り、出来ない所は手伝い・アドバイスしながら個々のレベルアップにつなげていく。 ・ 集団生活が難しい児童の特性や環境に目を向け、個別に合わせたスケジュールや環境設定も検討していく。
---	--------------------------	--	---